

2003年4月 獣医麻酔外科学雑誌 34 (2)

結腸との吻合による尿路変更術を実施した犬猫各1例

杉山優子 田中 宏 北村雅彦 小坂智美 本田陽子 酒井洋一 長崎英里奈 中山正成



猫: 逆行性尿路造影を行った結果、尿道が拡張、膀胱陰影は認められず、造影剤が腹腔内に漏洩している。

A cat of serious bladder and urethra with feline lower urinary tract disease was performed trigonal-colonic anastomosis. Uretrocolonic anastomosis was performed in a dog with transitional cell carcinoma of urinary bladder and prostate, which caused urine outflow incomplete obstruction. Both cases had anal continence without urine leakage after surgery. Trigonal-colonic anastomosis and ureterocolonic anastomosis ap-

pear to be a worth procedure for dogs and cats with diseases of the urinary bladder which cannot recover the function by reconstructive surgery and are necessary to make an alternative urinary passage.

下部尿路疾患を繰り返した結果、膀胱および尿道壊死を起こした猫に対し、膀胱三角—結腸吻合術と、膀胱および前立腺尿道に発生した移行上皮癌によって部分的尿路閉塞を起こした犬に対し、尿管—結腸吻合術を行った。いずれの症例も、術後の尿漏れもなく、肛門からの排泄が可能となった。いずれの術式も膀胱再建が不可能で永久的な尿の迂回経路設置が

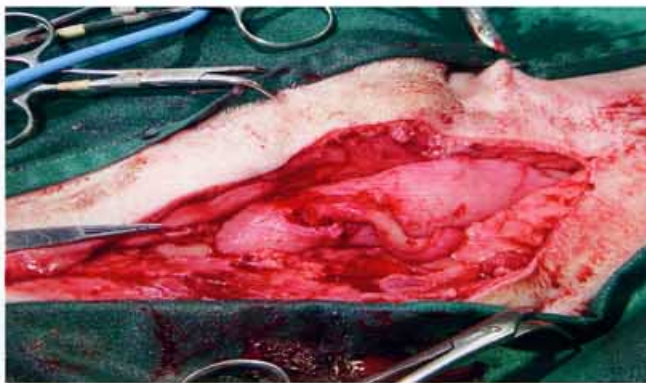


必要な症例において有用であると思われた。

猫: 膀胱は大部分が壊死していたため、唯一生存していた膀胱三角部を尿管ごと結腸へ吻合した。



犬: 超音波により膀胱背側に高エコー性の腫瘍病変が確認され、またこの腫瘍により尿管の部分閉塞があり、両側の水腎症を起こしていた。



犬: 開腹により膀胱三角部と尿管の一部を巻き込む腫瘍病変が存在し、前立腺にまで及んでいた。膀胱の温存は不可能と考え、結腸と尿管を吻合し、尿の排泄を期待した。